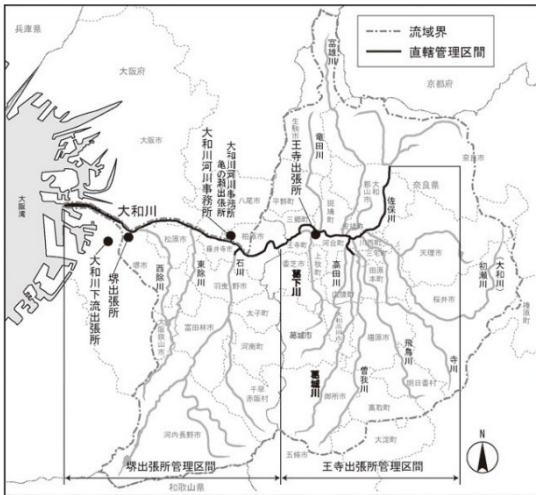


日本あちこち河川遡行記（第229回）

大阪2-1.石川（その1）平成31年1月28日（月）曇り

伯耆の川は暫く放棄して河内に向かう。大和川第一の支流「石川」に向かう。この川は大阪府南河内郡のほぼ全てを流域とする延長33kmあまりの川である。



01.大和川流域図

今日は播州赤穂で姫路行きに乗り換え大阪に向かう。鶴橋から榛原行き区間準急に乗り「安堂」駅で降りる。初めて降りる駅であるが本流遡行時にすぐ近くを歩いた駅である。構内に南北が逆になった案内地図が有る。これから向かう石川と対岸に渡る「新大和橋」も分かりやすく描かれている。

大和川に架かる自歩道の「新大和橋」に来ると石川の合流点の彼方に「二上山」、「葛城山」、「金剛山」が曇空にも負けずくっきりとその姿を見せてくれている。



02.南北が逆になっている安堂駅の地図



03.新大和橋から見た名山達

橋を渡ると道際に本流遡行時に見た大和川付け替えの解説板が有る。土手の

自転車道を今日は歩くことにして車の心配が要らない道を進む。この自転車道は八尾から本流の右岸を通り、新大和橋を渡り石川の土手を河内長野まで行く延長 21kmの府道 802 号線である。



04.大和川付け替えの解説が自転車道にも



05.石川沿いに整備された自転車道



06.八尾から河内長野までの土手が自転車道に

直ぐに石川のゼロキロポストが六角柱の立派な石柱に記されている。川幅は本流に負けないぐらいに広い。

石川区間に入り南に向かうと直ぐに国から大阪府に川の管理が変わる。国道と交差する交差点の管理境界とよく似た境界であるな。後は大阪府さんよろしく頼んませ！



07.ここが石川のゼロキロポスト



08.国から府に管理が変わる

石川最初の橋、府道 12 号の「石川橋」を見て進むと土手下に近鉄南大阪線の「道明寺駅」が見える。支線の「道明寺線」はここから北上しわずか 2km ほど進み JR 関西線の「柏原駅」で終わる。こちらが本来計画されていた本線であったが関西線が建設されたため柏原で諦め、道明寺から 90 度西に方向を変えて阿部野に向かうことになった。慌てて首を振ったのが地図で良く分かる。

次の「玉手橋」は珍しい 5 径間連続吊り橋である。素人の人が吊り橋の絵を書くと、多くの塔が並びその間にケーブルを張り渡した絵となるようだ。この橋のような規模で塔がコンクリートなら多径間吊り橋は可能であるが、長大吊り橋の場合は難しい。一般的な 3 径間吊り橋なら、中央径間に乗った荷重により両側の塔は中央側に少し曲がるが、後に控えるアンカレイジがケーブルを固定しているので塔の曲がり方は少ない。多径間になるとそのアンカレイジまで塔が並んでいるのでそれぞれの塔が大きく曲がってしまう（塔は鋼製でも長いので曲がり易い）のだ。主塔をコンクリートにすれば理屈上は可能だが重く、地震時の対応が大変である。

路面が径間毎に大きくうねっているぞ。吊り橋はフレキシブルで撓み易いので桁をあらかじめ上げ越しておくが、上げ越し高さが大き過ぎたようだ。



09.多径間吊り橋が現れる



10.路面が径間毎にうねっているぞ

土手下の道にマンホールが有ったので道に降りカシャ。どうやら藤井寺市の市の木「うめ」を数多く小紋にした絵柄である。どこにでも有るような絵柄で写真に撮る対象の限界である。



11.藤井寺市は梅の小紋

藤井寺市から羽曳野市に入ると道際に薄紫色の小さな花が多く咲いている。すぐ南の民家の庭の満開の紅梅が鮮やかに早春を感じさせてくれる。



12.羽曳野市に入るとこの小花が

やがて高速道の「西名阪道」の6車線のPC箱桁が川を越えている。最近ネクスト西の鋼橋の大半は鳩などの糞害を防ぐため桁をネットで覆い鳥の進入を防いでいるのを見るが、コンクリート橋をネットで覆っているのはおかしいぞ近づいてよく見るとコンクリートの表面がザラザラ状になっている。劣化が進んでいる。河川敷の人が通る範囲にはネットが張られているが、川の真ん中の流水部には張られていない。クラックの進行に伴うコンクリート破片の落下を防いでいるのだと推測する。



13.梅が満開に



14.コンクリート桁の表面が劣化しだしている

橋を過ぎ対岸を見ると「柏羽藤クリーンセンター」と書かれた清掃工場が稼働している。本流遡行時に出会った消防車と同じ柏原、羽曳野、藤井寺3市の共同センターである。大阪府は多くの狭い市が密集しているので合従するしかない。



15.南河内3市の清掃工場が

広い河川敷には遊歩道、球技場、公園などが続き本流よりも大河の雰囲気がある。どこで実施しているのか分からないが、毎年夏にはこの川でPL教団の大花火大会が行われているようでこの広さに納得する。土手道の傍らが桜並木となる。その先の西側には「応神天皇陵」の巨大な前方後円墳が小山のように見える。堺の「仁徳天皇陵」に次ぐ大きさの陵である。



16.桜並木が続く



17.西に巨大な前方後円墳が

国道166号の「臥龍橋」を越えると近鉄南大阪線の鉄橋が川を横断している。大阪線は各種特急が走行して華やかであるが、こちらは同じ色の一般車ばかりで面白みが無い。葛城山（左）と金剛山（右）をバックに電車をカシャ。東側の正面に二上山が近くに見える。左側が「雄岳（H=517m）」、右側が「雌岳（H=474m）」である。南大阪線とこれから出会う「南阪奈道路」は二上山の南の「竹内峠（H=288m）」を越えて大和に入る。



18.近鉄南大阪線の電車が川を越える



19.二上山が名前通りの姿に見える

快調に南に進むと羽曳野市道の「はびきの大橋」とその直ぐ上流側に「南阪奈道路」の橋が現れる。どちらも無塗装橋であるが市道の方は錆の状態が良くなく、阪奈道のほうは綺麗な状態である。ここまでのどの橋も橋脚などにアートを気取った落書きが書かれている。たぶんいくつかのグループが書くことを競っているのだろう。条例で厳罰にするべきである。



20.新旧の無塗装橋の出来が全く違う

更に南に進んで来ると空模様が怪しくなってくる。天気予報では午後小雨となっており、傘は用意してきたが雨の中を調査はしたくないのでキリの良い地点で川を離れ「貴志」駅に向かうことにする。土手から住宅地の中を西に向かう。段丘の上の駅に向かう道の片側が羽曳野市、反対側は藤井寺市となる。羽曳野のマンホール蓋はつまらないデザインであるが、藤井寺の方は葛城、金剛の両山に大きな家？が挿入されているのでカシャ。



21.富田林市の絵柄には葛城と金剛が

駅に着いたとたんにポツポツと降ってきた。ご正解！

駅の手前には「聖徳太子御廟」と彫られた大きな石柱が立っている。川向うの「太子町」は聖徳太子と縁の深い所で、その町への入り口がここなのであろう。



22.近鉄長野線、貴志駅に到着



23.駅前には聖徳太子の巨大な石碑が

やって来た「阿部野橋」行き準急に乗り、古市で本線から来た急行に乗り換える。車内を見ているとつり草の一群の中に一つだけ変わったのを発見する。終点で降りるときに近づいて見ると、達磨の下のつり草の上部に「つかめ！合格」と書かれている。やってくれはりまん一、近鉄はん。この機智、余裕、遊び心、好きやねー。



24.あれっ、一つだけ違うつり革が有るぞ



25.「つかめ、合格」、近鉄はん、やりまんなー

予定していた藤井寺駅からの帰りを短縮し、また帰りのこだま割安切符での新大阪駅発まで十分時間が有るので、今日は近鉄百貨店阿倍野店の地下に潜入する。かつての近鉄とは大いに変わり、高級感が漂う店に変身している。夕飯と明日の分も含めて珍しい物を買って地下鉄に乗る。川の遡行よりもデパ地下巡りが続いたなー。

本日の歩行距離：9.3km。調査した橋の数：9。

総歩行距離：10,272.4km。総調査橋数：12,832。

使用した1/25,000地形図：「古市」（和歌山5号-4）